

社会科学学習指導案

日 時 平成 26 年 10 月 2 日 (木) 5 校時
児 童 厚岸町立〇〇小学校 5 年
指導者 厚岸町立教育研究所 社会科部会

1. 単元名 食料生産を支える人々 (水産業のさかんな地域をたずねて)

2. 単元について

(1) 教材観

本単元に関わる学習指導要領 (抜粋) 及び内容 (抜粋) は、以下の通りである。

1 目標

(2) 我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連について理解できるようにし、我が国の産業の発展や社会の情報化の進展に関心をもつようにする。

2 内容

(2) 我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかわりをもつて営まれていることを考えるようにする。

ア 様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること

イ 我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色など

ウ 食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き

本単元は「食料生産を支える人々」(全 23 時間) で、農業や水産業が盛んな地域の様子を具体的に調べ、食料生産に携わる人々の生産を高めるための工夫や努力を理解するとともに、生産や輸送に関する費用や価格にも目を向け、日本の農業・水産業の現状と課題をとらえられるようにすることが目標である。また、食料生産に関する写真や地図、統計などの資料を収集・選択し、国民生活を支える食料生産の意味や、自然環境と深いかわりがあることなど、多面的に考えることもねらいとしている。

前半は稲作を後半は水産業を取り上げるが、単元終末には、既習事項をもとに日本の食料生産が抱えている問題を考え、食料を安定的に確保する必要性に気づき、児童個々が各自の食生活についてどのようなことに気が付いたらよいかふり返ることができるようにつなげていく。

(2) 児童観

《削除》

(3) 指導観（町研主題及び社会科部会主題との関わりも含む）

本単元では、『新ブランドを提案しよう！』を最終の目標として、地の利を生かし、せりや加工場の見学、漁業者からの聞き取りを取り入れて児童の興味関心が高まるようにしていく。全8時間の小単元であるが、第1時～第5時はさんまを、第6時（本時）にはかきを扱い、第7・8時には学習のまとめとしてさんま・かきのどちらかを選択して新ブランドを考える活動に取り組む。校外学習では本校の総合的な学習の時間（クラスタイム）も有効に活用しながら指導していきたい。

第1時で日本全国の水産業のさかんな地域に目を向けながら厚岸もその1つであることをおさえる。第2時にさんまの値段に含まれる様々な費用について、漁船上での捕獲から自分たちの食卓に届くまでに様々な人々がかかわっていることを学ぶ。第3時では、厚岸の“大黒さんま”を取り上げて、ブランド化する効果から漁業者の思いや工夫に気づき、学習のまとめとして各自が新ブランドを考えることを提示する。その後、せりと水産加工場見学を行い、第4時では、見学したことをまとめる中でさんま漁や出荷に携わる人々の工夫や努力を再確認し、第5時では、漁業別の生産量の変化等から日本の漁業の現状と課題を考える。第6時（本時）では、さんまの流通を学習したことを生かして、厚岸のかきに注目して、“カキえもん”生産者の思いや工夫を考える中で水産業全体に携わる人々の努力や工夫に目を向けられるようにする。その後、かき生産者への聞き取りを行い学習を深め、第7・8時は、さんまやかきの流通に携わる人々の知恵や工夫をさらに広げられるような“新ブランド”を考えることで学習のまとめとしたい。

町研社会科部会では、「楽しくわかる授業づくり～思考力、判断力、表現力を育む学習指導のあり方～」を研究のテーマとしている。本単元では、水産業に携わる人々の工夫や努力を体験的な学習も取り入れながら理解できるようにするが、“見る観点”“考える観点”を焦点化して指導していくことでより思考が深まり、まとめの活動において既習事項が生かされ、児童の成就感、満足感につながることを期待したい。

また、地域素材を生かした指導計画を立てて実践することで、児童が地元のよさを見つめ、地域に根ざして生きていく気持ちをもつことになるよう願っている。

3. 単元の目標

- 自分たちの食べている水産物が、どこで、どのようにしてとられているのか関心をもって調べることができる。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 生産者の工夫やさんまや牡蠣をブランド化するための努力から、生産者の思いを考えることができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- さんまが自分たちの食卓に届くまでの道のりや輸送方法について写真や地図などから読み取ることができる。
(観察・資料活用の技能)
- さんま漁やさんまの出荷に携わる人々の仕事の様子とその工夫や努力を理解することができる。
(社会的事象についての知識・理解)

4. 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
日本の水産業について関心をもって意欲的に調べ、自分たちの食生活を支えている水産業が今後どのようなようになっていくとよいかを考えようとしている。	水産業に携わる人々の工夫や努力、水産業と加工や運輸などの仕事とのかかわり、自然環境を守るための取り組みについて考え、適切に表現している。	水産業に関する写真や地図、統計などの資料を目的に合わせて、収集・選択し、適確に読み取っている。	日本の水産業がさまざまな地域の様子や、日本の水産業の現状と課題を理解している。

5. 単元計画（全8時間）

時間	◎本時の目標	○課題＝発問 ●その予想される解答例	◇児童の活動 ◆評価規準
1	・海流ごとの魚の種類の違い、水あげ量の多い漁港が集まった地域などを調べることができる。	○水あげマップをつくらう！ ●寒流と暖流で捕れる魚が違うよ。 ●場所が違えば量も全然違うよ。	◇教科書や資料を調べて「水あげマップ」を作成する。 ◆自分たちの食べている水産物が、どこで、どのようにしてとられているのか関心をもって調べようとしている。（関・意・態） ◆海流ごとの魚の種類の違い、水あげ量の多い漁港が集まった地域などについて、地図を活用して調べている。（技） 〈発言・観察・ワークシート〉
2	・さんまの値段にふくまれる様々な費用について考えることができる。	○さんまの値段にふくまれる費用について考えよう！ ●船を動かすお金 ●輸送に使うお金 など	◇さんまの値段にふくまれる費用を携わる人々を予想してまとめる。 ◆さんまが食卓に届くまでに携わる人々を予想して、必要な経費などを考えている。 （思・判・表） 〈発言・観察・ワークシート〉
3	・大黒さんまと名乗れるさんまとそうではないさんまの違いに目を向け、漁師さんの思いや工夫に気付くことができる。	○なぜ、船の上で選別して大黒さんまと名付けて出荷するのか？ ●よりおいしさをアピールするため ●鮮度を売りにしたいから	◇大黒さんまとそうでないさんまの違いから、漁師さんの思いや工夫を考える。 ◆資料や既習から漁師さんの思いや工夫、ブランド化することの効果を考えている。 （思・判・表）

せり見学・水産加工場見学（総合的な学習の時間）			
4	<p>さんまが自分たちの食卓に届くまでの道のりや輸送方法について見学したことから読み取り、さんま漁やさんまの出荷に携わる人々の仕事の様子とその工夫や努力を理解することができる。</p>	<p>○見学に行ってみてわかったことをまとめよう！</p> <p>●鮮度を保つために色々な工夫をしていたよ。</p> <p>●衛生面でも色々なこだわりがあったよ！！</p>	<p>◇「見学ワークシート」をまとめて完成させる。</p> <p>◆さんまが自分たちの食卓に届くまでの道のりや輸送方法について写真や地図、タイムスケジュールなどから読み取っている。(技)</p> <p>◆さんま漁やさんまの出荷に携わる人々の仕事の様子とその工夫や努力を理解している。(知・理)</p> <p>〈発言・観察・ワークシート・ノート〉</p>
5	<p>・漁業別の生産量の変化等から日本の漁業の現状と課題を考えることができる。</p>	<p>・これからの漁業について現状と課題から考えて提言する。</p>	<p>□日本の漁業の現状と課題をつかみ、今後、日本の漁業はどうあるべきか各種資料をもとに考えている。(思・判・表)</p> <p>〈発言・観察・ワークシート〉</p>
6 本時	<p>・カキえもんの生産者の思いや工夫に気付くことができる。</p>	<p>○なぜ、純厚岸産のかきにこだわったの？</p> <p>●厚岸のおいしい牡蠣をアピールしたかった</p> <p>●おいしい牡蠣が作れる環境があるから</p>	<p>◇純厚岸産の牡蠣「カキえもん」の生産者の思いや工夫を考える。</p> <p>◆資料や既習から生産者の思いや工夫、ブランド化することの効果を考えている。(思・判・表)</p>
かきの生産者への聞き取り（総合的な学習の時間）			
7 8	<p>・厚岸町の漁業に携わる人々の工夫や努力から新しいブランドを考えようとしている。</p> <p>・新鮮で安全という観点から、新ブランドを考えている。</p>	<p>○厚岸町の新ブランドをつくろう！！</p> <p>●より、鮮度を重視した大黒さんだから、○○さんま！</p> <p>●完全厚岸産かき○○！！</p>	<p>◇今までの学習をふり返り、生産者や加工、輸送に携わる人々の工夫や努力から新ブランドを考える。</p> <p>◇新鮮・安全という観点から新ブランドを考える。</p> <p>◆既習から新ブランドを考えている。(思・判・表)</p>

6. 本時の学習について

(1) 本時の目標

- 純厚岸産のかきにこだわった生産者の思いを考えようとしている。 (関心・意欲・態度)
- 純厚岸産のかきにこだわった生産者の思いをおいしいかきが育つ環境であることやブランド化するメリットなどを考えることができる。 (思考・判断・表現)

(2) 本時の展開 (6/8)

学習活動	教師の支援・評価
<p>○前時までの学習を振り返る。</p> <p>○厚岸の牡蠣ブランド、カキえもんを提示する。</p>	<p>●本時の課題を導く振り返りとする。</p> <p>●厚岸天然の牡蠣の減少から厚岸では、栽培漁業で牡蠣を生産していることを伝える。</p>
<p>なぜ、純厚岸産のかきにこだわって生産をしたのかな？</p>	
<p>○自分の考えをノートに書く。</p> <p>○グループで話し合う時間をつくる。</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>予想される考え</p> <p>厚岸のおいしい牡蠣をつくれる環境を生かしたい</p> <p>よりおいしい牡蠣を消費者に味わってもらいたい</p> <p>ブランド化することで、よりたくさんの人に食べてもらえる</p> </div> <p>○自分の考えを発表する</p> <p>○友達の考えと自分の考えの違いや同じ点に目を向け、考えをまとめていく。</p>	<p>●教室壁面に提示してある既習を活用し、工夫やブランド化を目指した理由に目を向けられるようにする。</p> <p>●板書に考えを分類し、分かりやすくまとめる。</p>
<p>厚岸のおいしい牡蠣を全国に伝えるために純厚岸産の牡蠣を生産したんだね！</p>	
<p>○ふりかえりを書く (5分)</p> <p>○かき漁の見学へ行くための、取材メモをつくらう</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>予想される考え</p> <p>ブランド化した理由を聞いてみよう！</p> <p>おいしいかきをつくる工夫を聞こう！</p> <p>辛いことはないのか聞いてみよう！！</p> </div>	<p>●最後に、厚岸にはたくさんの厚岸産のブランド魚介類があることを提示。</p> <p>●かきによい環境づくりとして、植樹祭、ゴミ拾いなどを行っていることなどを提示。</p>

10/5

なぜ純厚岸産のかきにこだわったのかな？

厚岸の有名ブランド おいしいかきのつくれる環境 ブランド化を目指して

インタビュー
しよう！

【カキえもん】

宮城県産のかきから幼生
を育てる
稚貝を育てる
生産者がおいしく育てる

- ・厚岸湖もあるよ
- ・豊かな自然がある
→湿原・森
- ・昔はたくさん捕れたし
- ・おいしいかきが育つ

- ・厚岸産のかきを取り戻
したい
- ・厚岸=おいしいかき
- ・厚岸町のPRになる

時間・お金がかかる！！

おいしいかき=カキえもん